

建築と社会

Architecture and Society

04

vol.96 No.1117

2015

特集：

第21回 会員作品

“私の空間作法”

“The Method of Making Space”

01 浮御堂
唐崎神社

02 天然図画亭
居初氏庭園

03 南郷洗堰

04 浮島十三重石塔

05

06

07

08

09

10

11

12

武庫川女子大学 看護科学館 学校教育館 見学会

この見学会は、建築CPD情報提供
制度認定プログラムです。
(公社)大阪府建築士会 (2単位)
(公社)日本建築家協会 (2単位)

昨年末に竣工した武庫川女子大学の
2つの新館です。共通するテーマ
「交流 (コミュニケーション)」に対
して敷地や機能など、異なる条件の
もと、設計者がどのようにアプロ
ーチしたのか、比較しながらの見学も
見どころとなっています。

日 時 2015年4月25日(土)
14:00~16:00 (予定)

見 学 先 武庫川女子大学
看護科学館・学校教育館
所 在 地 兵庫県西宮市鳴尾町1丁目
15番他

講 師 堀良平 (株竹中工務店)
松森織江
(株東畑建築事務所)

集 合 現地
(集合場所は参加証に地図
記載)

最 寄 駅 阪神 鳴尾駅下車

定 員 30名 (先着順)

参 加 費 会員1,000円

一般1,500円

学生 500円

申込方法 ①催し名
「武庫川女子大学見学会」

②氏名

③会員・一般・学生の別

④職場名または学校名

⑤参加証送付先住所

⑥連絡先電話番号

⑦CPDを申請される方は、
申請先の団体名とID番号

上記項目を明記しFAXま
たはE-mailにて下記まで
お申し込みください

申 込 先: (一社)日本建築協会
(担当: 藤巻)
TEL: 06-6946-6981
FAX: 06-6946-6984
E-mail: jigyoka@aaj.or.jp

「看護科学館」

建 築 主 学校法人 武庫川学院
設計施工 株式会社 竹中工務店
敷地面積 2632.57㎡
建築面積 815.46㎡ (既存含まず)
延床面積 4559.88㎡ (既存含まず)
構造規模 S造+RC造 地上6階
竣 工 2014年11月
建物用途 大学



2015年4月開設の武庫川女子大学看護
学部及び大学院看護学研究科のための
新校舎です。新学部の開設にあたり与
えられたテーマは、「コミュニケーション
力」と「実践力」の育成にふさわし
い教育環境の創造でした。

■「コミュニケーション力の育成」
この建物はコンパクトなボリュームの
中に、講義室、実習室、研究室、その

他諸室といった複数の機能を積層する
構成となっており、これらの要求機能
を満足しながら、テーマの一つである
コミュニケーションを育むスペースを
確保することがポイントでした。具体
的には、一般的な廊下を挟んだ居室配
置ではなく、ホールを中心とした居室
配置としています。これにより、居室
以外の全ての空間を有効に活用する
ことができ、コミュニケーションス
ペースとして、学生同士の交流、学生と教
員との交流を活性化させています。

■「実践力の育成」

この建物には4つの実習室があり、臨
床の現場に限りなく近い環境での実習
により、実践能力の育成ができます。
多様な演習内容に柔軟に対応するため、
偏平RC柱とS梁を組み合わせた構造形
式を採用し、外壁周りに柱型の出ない
使いやすくフレキシブルな大空間を実
現しています。

■「色の持つ力を体感できる学び舎」
建物内部は女性らしい優しい色合いを
基調に、各階で行われる活動の効果を
高める色をアクセントカラーとして採
用しました。学生自身が日常生活の中
で身をもって色の力を体感し、体のケ

アだけでなく心のケアに関しても興味
をもつ仕掛けがなされています。

■「周辺と調和した外観デザイン」
外観デザインは隣接する総合心理科学
館 (2011年竣工) と同様の二丁掛タ
イルとし、43号線以北で拡張する新キャン
パス群としてのアイデンティティを
明確に表現しました。

(堀良平/竹中工務店)



「学校教育館」

建 築 主 学校法人 武庫川学院
設 計 株式会社 東畑建築事務所
施 工 株式会社 大林組
敷地面積 3,155.07㎡
建築面積 1,983.46㎡
延床面積 9,483.01㎡
構造規模 S造 地上7階
竣 工 2014年12月
建物用途 大学



地域社会と共に教育・保育の「知」を
はぐくみ、次代の教育を国内外的に
リードしていく「人と情報のネット
ワーク拠点」が望まれた新館です。4
つのコンセプトを軸に新たな教育環境
の創造を目指しました。

■「成長」－伝統と開放性の表現
教育・保育に携わる様々な人に開かれ

た交流拠点としての開放性を表現しま
した。武庫川女子大学のブランドとも
言える伝統的な厚重感あるタイル壁を
リブ状に配列し、軽快感ある透明ファ
サードをリブ間に設けた外観構成とし
ています。アプローチするに従い徐々
に垣間見える女子大の華やかさが外部
からも親近感を感じさせる表情としま
した。

■「発信」－開かれた教育学の拠点
場所は中央キャンパスより北側国道43
号以北の一敷地。単独敷地の立地条件
を活かし内外の垣根を和らげると共に、
大学のアクティブな活動をライブに発
信できる外観となっています。国道沿
いに配した「コミュニティアゴラ」は、講演
会などをするに最適な空間とし、最先
端教育を視覚化する設えとしました。

■「交流」－対話と交流の誘発
東西軸に教室を配したコの字型ブラン
で、アクティブラーニングの場 (自発
的な学習の場) としての「コミュニ
ティ・コモンズ」を、動線中心部に配
置しました。授業のあいまなどにヨリ
ミチしやすい場所、人の目に付きやす
い場所とすることで、見る・見られる
の関係性を創出し、より自発的学習を

促す仕掛けとなっています。また、一
室空間ではなく各階に分節して設け、
吹抜を介して千鳥状に連続する構成と
しました。個々の場に個性をもたせる
とともに、立体感ある動的空間による
インフォーマルなコミュニケーション
の誘発を意図しています。

■「環境」－緑豊かな環境と環境教育
「ビオトープ」、「教育の森」、「サイエ
ンスフィールド」など教育実習装置の充
実を図り、未来の教育者を育てるにふ
さわしい施設となればと考えています。
(松森織江・広瀬和也/東畑建築事務所)



主催 日本建築協会

平成27年度 第61回工高生デザインコンクール

設計課題

みんなの図書館

課題の趣旨

近年、図書館が変わりつつあります。夜遅くまで開館している図書館、カフェが併設された図書館、音楽が聞こえてくる図書館…。かつて、静穏が求められ、知の殿堂といわれた堅苦しいイメージの図書館は、市民の知的好奇心を刺激し、コミュニティ形成を後押しし、豊かな時間を過ごすことのできる第3の居場所として計画される事例が増えています。これは、1970年代に多く建てられた図書館などの公共建築の老朽化と人口が減少に向かう社会背景とともに、スマートフォンなど様々なメディアが登場した



生活環境に適応すべく、図書館をもっと魅力的な場所にしてほしいとの要望や期待があつてのことです。

とはいえ、夜遅くまで開館しカフェを併設すればすべての図書館が魅力的になるとはいえません。計画する街の魅力や特性、そこに住まう人々のライフスタイルなどをよく読み取り、あなたとともに多くの方々が「こんな図書館が欲しかった!」といえる『みんなの図書館』を提案してください。図書離れが進んでいるといわれる若人ならではの発想を期待しています。

設計条件

1. 敷地: 敷地の大きさ形状とも自由とし、具体的な敷地を設定する。
2. 規模: 延べ面積、構造、階数は自由とする。
3. 所要室: 使用方法を想定し、必要と思われるスペースを適宜設ける。

所要図等

1. 設計説明: 設計意図を表すサブタイトルを必ずつけること。
設計趣旨(建物の使い方、立地、周囲の状況等についての説明を含む)
2. 建築概要: 敷地面積、建築物の構造、階数、各階床面積および建築面積、延べ床面積などを示す。
3. 敷地周辺図: 敷地周辺の環境や状況を示す。縮尺を明示する。
4. 配置図: 敷地における建物の位置、道路との関係、方位、縮尺を明示する。
5. 平面図: 室名、寸法を記入する。縮尺を明示する。
6. 立面図: 縮尺を明示する。(2面以上)
7. 断面図: 室名、寸法を記入する。縮尺を明示する。(1面以上)
8. 透視図等: 設計意図が最も反映するところを表現する。透視図は手書きによる作図を原則とするが、コンピュータグラフィックス、模型写真に代えてもよい。その他必要とされる手書きの図面は加えてもよい。

応募条件

1. 用紙: 用紙はケント紙などの厚手の製図用紙A1判(594mm×841mm)1枚を使用し、直接描くこと。トレーシングペーパーと裏打ち用紙の重ね使用や図面のパネル化は認めない。
2. 仕上げ: 所要図等は手書きによる鉛筆仕上げとする。ただ(作図、文字)し、色鉛筆による着色は可。透視図(コンピュータグラフィックスも含む)、模型写真のほか設計説明を補完する図や写真などは図面に貼り付けてもよい。なお、製図用紙への図表等の印刷出力など上記以外の仕上げは禁止する。

審査員(50音順・敬称略)

審査員長 木下 光/関西大学環境都市工学部建築学科准教授
審査員 一階 聡之/榊日建設設計部門設計部長
上羽 一輝/榊東畑建築事務所大阪事務所設計部部長
大平 滋彦/榊竹中工務店大阪本店設計部設計第4部長
神谷 浩司/榊大林組大阪本店建築事業部建築設計部課長

3. 応募資格: 平成27年4月現在、高等学校在籍の生徒で、個人または共同(3人まで)で制作したものとする。

応募方法

1. 応募用紙に、学校名・所在地・学年・氏名を記入の上、封筒に入れ密封し、図面の裏に貼りつけること。(応募用紙が足りない場合は当会HP(<http://www.aaj.or.jp>)からダウンロードして下さい。)
2. 応募作品は学校を通じて提出すること。

締切期日

平成27年9月30日(水)の消印、あるいは受付印のあるものをもって締め切る。

送付先

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号 OMMビル7階
一般社団法人 日本建築協会 第61回工高生デザインコンクール係
TEL.06-6946-6981 FAX.06-6946-6984
E-mail: kyoukai@aaj.or.jp URL: <http://www.aaj.or.jp>

入選作品の数および賞

1. 入選作品は10点とする。
2. 入選作品のうちから最優秀賞1点、優秀賞2点を選ぶ。
3. 最優秀賞・優秀賞作品には、賞状および表彰盾を贈り、その他の入選作品には、賞状を贈る。
4. 応募者全員に参加賞を贈る。
※入選作品の著作権は本会に属する。

入選者発表および表彰式

審査の結果は、各学校ならびに本人に通知するほか、本会の会誌「建築と社会」11月号に発表し、入選作品は翌年1月号に掲載する。表彰式は、平成27年11月7日(土)に行う。

河崎 昌之/和歌山大学システム工学部環境システム学科准教授
所 千夏/アトリエCK代表
橋本 修/榊昭和設計建築設計部部長
南浦 琢磨/榊安井建築設計事務所設計部主幹
矢田 朝士/ATELIER-ASH主宰

このコンクールは、高校生の設計技能の向上を目的とし、昭和30年より毎年テーマを変えて開催しています。

見学会 名古屋大学減災館 減災連携研究の拠点



CPD（2単位）予定

名古屋大学の減災館は、産官学民含めた総合的な減災研究を目指し、多部門横断型の研究拠点の場を創ることを目的に名古屋市東部丘陵の東山キャンパスに建設されました。

平時は減災研究・減災教育の場として活動し、非常時には災害対策本部、災害研究の場として機能するため、平時から非常時へのスムーズな対応を前提とした建築・設備計画となっています。また基礎・中間層の二重免震構造の採用、起振装置を備えた屋上実験室を備えるなど、他に類例のない特徴を持つ施設です。

見学会ではこの施設の計画に携わった意匠、構造設計者による講義も予定しており、会員や学生の皆さんにとって、またとない機会です。

お見逃しなく。

日 時 2015年**5月16**日(土)
13:30~15:00
13:00受付開始
集 合 名古屋大学減災館エントランス（名古屋市営地下鉄名城線名古屋大学駅 2番出口より3分）
定 員 30名先着順
（会員または学生）
参 加 費 500円（資料代）

申込方法 FAXまたはE-mailで、
①催し名「減災館見学会」
②氏名
③所属
④連絡先電話番号
⑤連絡先FAX番号
⑥連絡先E-mailアドレスを明記
申 込 先 （一社）日本建築協会
東海支部減災館見学会担当宛
Tel 052-261-1451
Fax 052-261-0251
E-mail info@aaj-tokai.jp

大阪府知事指定講習 改正建築基準法及び 改正建築士法の解説 講習会

平成26年6月に「改正建築基準法」及び「改正建築士法」が公布され、本年6月から施行されます。

この2法の解説講習会を次により開催しますので、ぜひともご参加ください。

○と き 平成27年**5月29**日(金)
○ところ ドーンセンター7階ホール
○主 催 (公社)大阪府建築士会
(一社)大阪府建築士事務所協会
(一社)日本建築協会
(公社)日本建築家協会近畿支部

※詳細は、同封したちらしをご覧ください。

建築と社会

Architecture and Society

04 vol.96 No.1117

2015

特集予告

06月号…これからの学びのかたち
05月号…あかり・文化・創造

今月の表紙

浮島十三重石塔 (1286)



宇治川の中洲に立つ石塔。建立は1286年、高さは15mにも及び、現存する最大の石塔だという。

寸法がすこしずつ異なる石が積み重ねられ、美しいシルエットができあがっており、上部に法輪が乗る。

石塔の起源は仏教における仏塔（ストウパ）であり、十三重石塔も宇治川の治水を祈念して建てられたものである。

そして祈りの象徴であるだけでなく、松林にたたずむ建築と見立てられ、宇治の山水の風景とともに古代から楽しまれていたことだろう。

(多田正治)

特集： 第21回会員作品 “私の空間作法”

木質空間の魅力を楽しむ		吉村篤一＋建築環境研究所	8
本に囲まれて住まう		新居照和＆新居ヴァサンティ	9
ROBSON COFFEE ARTS MAEBASHI		水谷俊博＋水谷玲子	10
のこすこと つくること		吉永規夫	11
静寂のファサード		飯田修平＋千代昌美	12
未来へと続く家		岸 一	13
お洒落な街の、伝統を育む保育園		中尾勝悦	14
街と緩やかにつなげる		田中啓文	15
終の湯屋（ついのゆや）		村重保則・盛紀	16
世代を超えて生き続ける建物		元廣清志	17
見はるかす伊賀上野城		河原輝雄	18

連 載	会告	武庫川女子大学 看護科学館 学校教育館 見学会 第61回工高生デザインコンクール (設計課題: みんなの図書館) 見学会 名古屋大学減災館 減災連携研究の拠点 大阪府知事指定講習 改正建築基準法及び改正建築士法の解説講習会	1 2
	作品作風	阪南大学 50周年記念館	4
	gallery	城北の家 寶川悠一	6
	法令コーナー	国宝姫路城大天守保存修理工事 福田剛史	19
	設備の頁	鉛バッテリー再生延命装置 川原哲実	20
	関西の建築界 群像	岸下真理・岸下和代 清原健史	21
	Member's Forum	U-35委員会企画 talk baton 01,02 活動報告	22
	information	第13回村野藤吾建築設計図展ー村野藤吾の住宅デザイナー、 特別展 肉筆浮世絵ー美の競艶〜浮世絵師が描いた江戸美人 100選〜、堀 文子【一所不住・旅】展、特別展覧会「桃山 時代の狩野派ー永徳の後継者たち」、ピカソと20世紀美術展	24
	月間の動き	平成27年 2 月	26



プロムナード正面に位置する新しい大学の顔



木質内装であたたかみある50周年記念ホール

阪南大学 50周年記念館

建 築 主 学校法人阪南大学
 設計・監理 日建設計
 施 工 清水建設

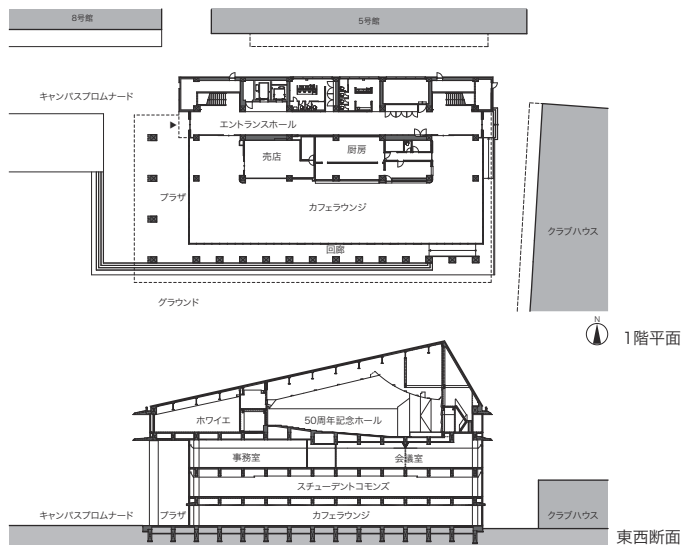
阪南大学創立50周年記念事業として、正門からのキャンパスプロムナード正面の象徴的な場所に建設された新棟。

外装は既存キャンパスの景観に調和したせっ器質タイルとコンクリート化粧打ち放しで構成した。また、水平庇と勾配屋根をもつ象徴的な外観とし、記念館としての品格と存在感を表現した。エントランスはコンクリート打ち放しの列柱が持ち上げる大屋根状の水平庇が、学生を迎え入れ、学生の多目的な活動の場とした。

1階のカフェラウンジは、グラウンドに開けた眺望を活かしてオープンな構成とし、フローリングと天井の木ルーバーで落ち着きと格式ある空間とした。2階の学生コモンズは、フレキシブルな家具配置が可能なオープンな空間とし、学生の多様な学びの活動の場となる。4階の記念ホールは、固定席500席を有する学術交流の場として計画し、内装は勾配屋根形状に沿った天井と、木材を多用した温かみと格調ある空間を目指した。

また、大学の歴史・沿革を展示するホワイエの壁面には、大学のシンボルマークである「リバティ・ウイング」をモチーフとした陶板をグラデーション状に配した陶板壁を設け、キャンパスプロムナードからもガラス越しに見える、大学の新たなシンボルとした。

(渡辺豪秀・鍋島淳一・村井健治/日建設計)



所在地	大阪府松原市	構造規模	RC造一部S造、地上5階
敷地面積	40,190.87㎡	工期	2013年4月～2014年6月
建築面積	1,602.07㎡	最寄駅	近鉄南大阪線 河内天美駅
延床面積	5,481.77㎡	撮影	フジタ写真工房



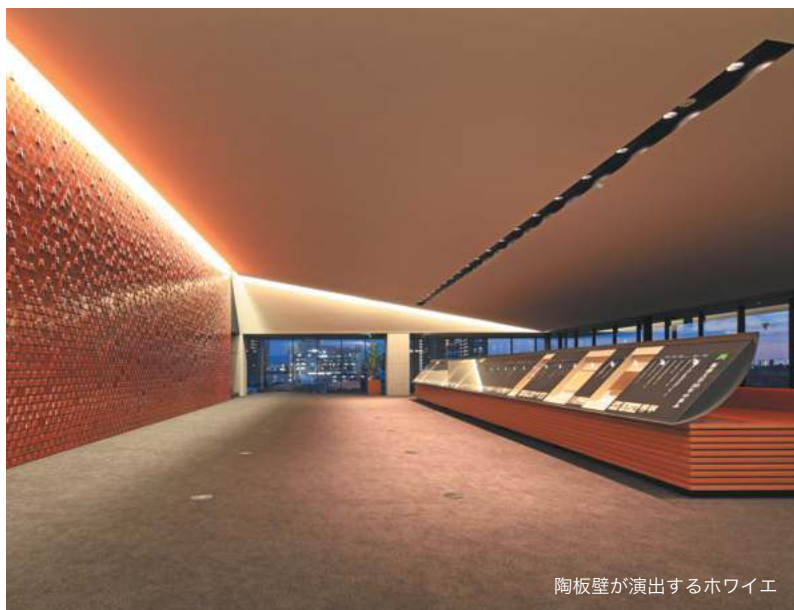
多様な学びの場となる学生コモンズ



グラウンドに面して開かれたカフェラウンジ



水平庇がゲート状に迎えるプラザ



陶板壁が演出するホワイエ

まち

建築

ひと

gallery

城北の家

住宅建築家

寶川 悠一

周囲を住宅に囲まれた文脈の無い敷地において、建て替え等による不利な周辺環境の変化があっても採光通風を確保できる住空間を獲得する事が本計画におけるテーマでした。

7M角の正方形を隅切りした2.5層のプランとし、南東方向に抜けを確保しています。高性能な箱にパッシブソーラーや薪ストーブといったアナログで快適性を担保できる装置を導入しました。木の家の性能・デザイン・コストパフォーマンスのバランスを設計施工で追求しています。

寶川 悠一（たからがわ ゆういち）

1981年 兵庫県生まれ

2004年 和歌山大学 卒業

2006年 和歌山大学大学院 修了

2006年 高松建設 勤務

2009年 プレスト

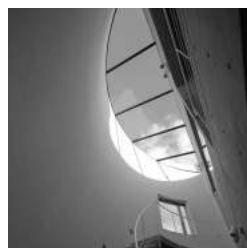
企画編集：豊田充広（作品作風小委員会）





私の空間作法

日本建築協会 ■ 会員作品特集



まち・ひと・時間。

空間を作り上げてゆくとき、そこでは様々なつながりの場面が繰り広げられます。ご応募いただいた作品は、それらのシーンをひとつひとつ思い浮かべながら、大切に作り上げられたであろう事が伝わってくる、ぬくもりの感じられるものばかりです。

今年も引き続き会員の皆さまがますますご活躍され、よりたくさんのこだわりの「空間作法」に出会える事を楽しみにしております。

木質空間の魅力を楽しむ

吉村篤一＋建築環境研究所



我が国の住まいは木造が最適であると言えるだろう。中でも関西地区では四季の変化がはっきりしていて、春から夏にかけては多雨で高温多湿の日が多く、秋から冬にかけては乾期となり真冬には零度以下になり積雪も見られる。このような気候のもとでは家そのものが呼吸し、或いは伸縮したりする構造が望ましいと言えよう。

この家は伏見桃山城から少し離れたところで、傾斜地を平坦に造成した敷地に建っており、この地域の景観の中に違和感なく存在している。勾配屋根の構造を露出した大きな吹き抜けのリビングを中心に各部屋が配置されている。主たるガラス戸や窓は木製で梁や柱等も露出しており、木質の魅力あふれる住空間となっている。リビングの端部にある階段から2階の廊下を通してオープンな子供スペースに至る連続感がこの家の空間的な核となっている。

(吉村篤一)



桃山の家

所在地	京都市伏見区
施工	片山工務店
建築面積	85.05㎡
延床面積	134.2㎡
構造規模	W造、地上2階
竣工	2011年4月
撮影	大島勝寛

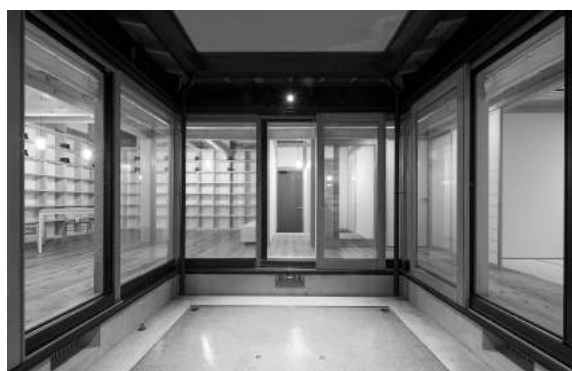
本に囲まれて住もう

新居照和 & 新居ヴァサンティ 新居建築研究所



雨量の少ない温暖な讃岐平野の住まいである。多忙な日々を過ごされる中で、帰宅時に読書を楽しむ住環境を望まれた。水が湧き出る中庭を中心に、本棚に囲まれた様々な場をもつ住まいの空間を巡らす。中庭に湿気がたまらないように、床高を高くし空気が流れるようにしている。夏は床下に流れる冷気を室内に入れる通気口を設けている。自然乾燥をさせた木頭杉でつくる空間に、夏は心地よい風を通わせ、冬は高断熱化によって暖かさを包む。

(新居照和)

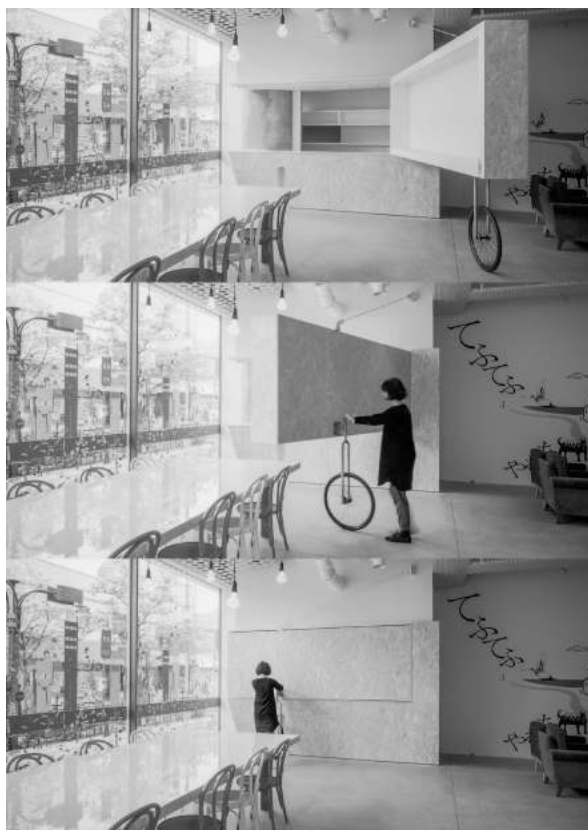


讃岐の家

所在地	香川県三木町
施工	アズマ建設
建築面積	160.53㎡
延床面積	160.11㎡+32.02㎡（駐車場）
構造規模	W造、地上1階
竣工	2014年3月
撮影	北田英治

ROBSON COFFEE ARTS MAEBASHI

水谷俊博＋水谷玲子 水谷俊博建築設計事務所



群馬県前橋の中心繁華街にある長年空きビルの状態であった旧デパートをコンバージョンし、生まれ変わらせた美術館「アーツ前橋」の施設内に運営するカフェ。立地条件が圧倒的に街に近い存在であるため、まちとつなげていくデザインを目指した。ファサードをガラスジョイント工法による開放的なカーテン・ウォールとし、既存建物の姿（記憶）を大切にコンバージョンの魅力を最大限うみ出すことを考え、天井をスケルトンとして設備をあえて魅せるデザインを施している。約7mの長さの大きなコミュニティテーブルを中心に配し、みんなが集まってカフェを楽しめる構成となっている。またカフェのカウンター自体が自転車の車輪のようなデザインを施した仕掛けにより可動し、多様な利用の仕方ができるようになっている。人々がカジュアルかつ積極的に利用できる魅力的な多彩な場所づくりをおこなうということをふまえ、路面店のようには開かれてカフェが街と美術館を繋いでいる。

（水谷俊博＋水谷玲子＋平田悠）

ロブソン コーヒー アーツ前橋店

所在地	群馬県前橋市
施工	佐田・鶴川・橋詰特定JV、利根・群電特定JV、ヤマト・三洋特定JV
延床面積	カフェ改修部分：119.20㎡
構造規模	RC造
竣工	2013年10月
撮影	浅川 敏
インテリア	ミリメーター（宮口明子＋笠置秀紀）

のこすこと つくること

吉永規夫 Office for Environment Architecture



大阪市内の築約70年の2軒長屋のリノベーションで、私たちの住まいでありアトリエです。

周辺にはたくさんの長屋が残っていますが、たくさんの長屋が取り壊されているのも日常です。

隣家は80代のおばあさんが元気に独り暮らしを続けていて、隣が空き家だと不安という理由で数年前から私たちも住み始めました。空き家に住むことで隣人への安心感を与えている一方、古い長屋の壁一重の関係（界壁は小屋組まで達していなかった）は音の問題で迷惑をかけることも考えられたため、小屋組まで達する本棚を挿入しました。

これまで見えなかった構造体や土壁など古いものは可能な限り残して、当時のアノニマスの職人への敬意として痕跡を見えるようにしました。一方、現代的なライフスタイルに適應するように新しいものを少しアップグレードしています。

「ヨシナガヤ」が、街と密接に関わりをもてる地域に開かれた長屋となり「良し長屋」とよばれるようになればと思います。

（吉永規夫）

ヨシナガヤ

所 在 地	大阪府大阪市
施 工	NPO
建 築 面 積	56㎡
延 床 面 積	56㎡
構 造 規 模	W造、地上1階
竣 工	2014年11月
撮 影	中村寛史

静寂のファサード

飯田修平＋千代昌美 一級建築士事務所 9月の風



呉市は、海運業の拠点として長い歴史があり、古いレンガ造りの倉庫が港周辺に現在も建ち並んでいる。どこか小樽の運河を連想させる静かな地方都市である。北向きのファサード内部は吹抜けで、大きなスカイライトを置き降り注ぐ太陽光が曲面壁に乱反射し季節や気候、時の移り変わりを何とはなしに住み手に伝える。南側は、商店街の駐車場でこの先どうなるか不明。各階に広いインナーバルコニーを設け、静寂を確約した庭の役割を持たせたのはそのためである。スポーツカーごと帰宅できる広いエントランスホールは、その境界が曖昧で両開きの扉を開け放せば、路地の様である。鉄製のその扉に桧板を張って印象付けしている様に、内装は全て桧造りで、匂い立つ桧風呂はその日一日の疲れを癒してくれるのである。

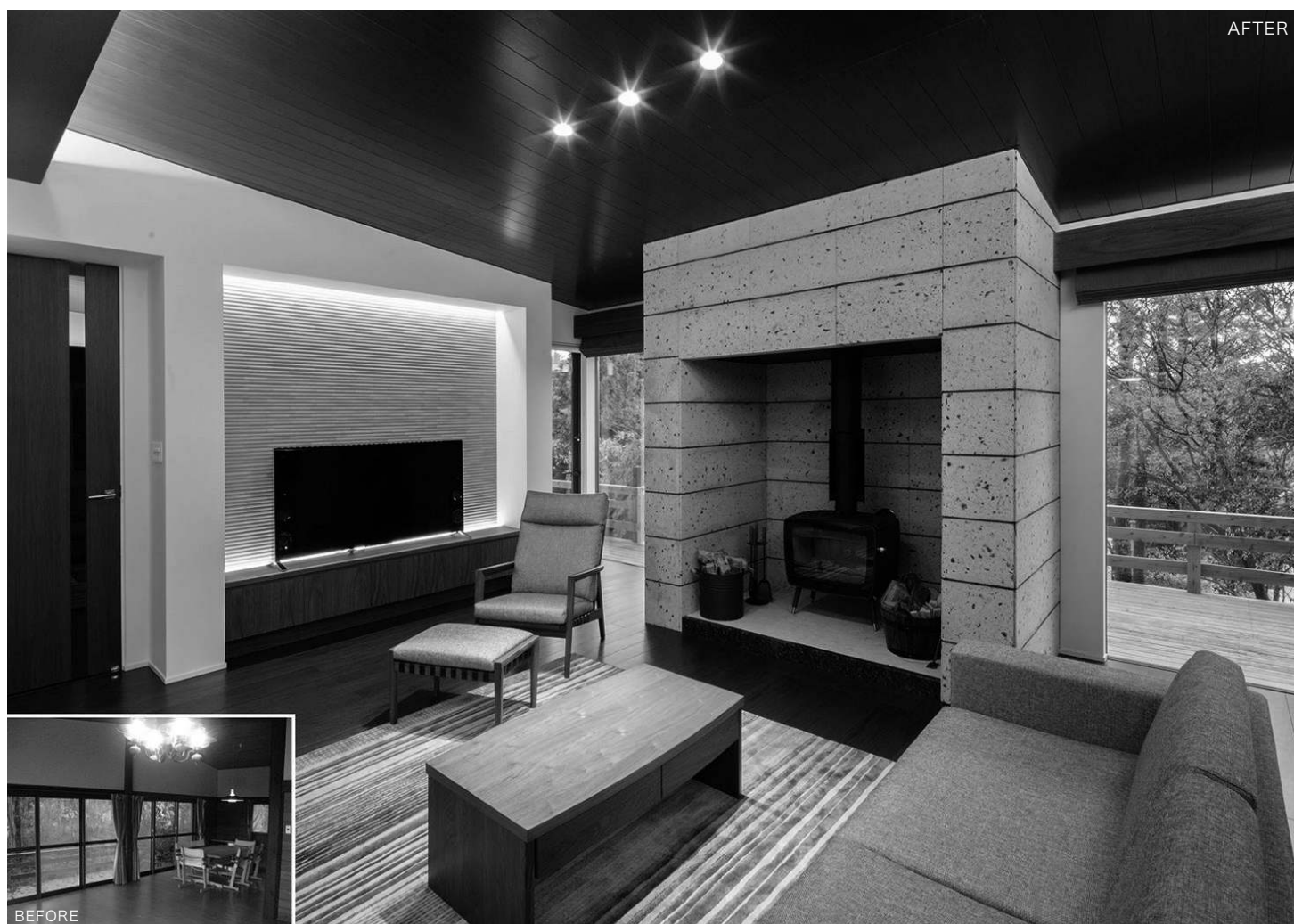
(飯田修平)

呉中通りの家

所 在 地	広島県呉市
施 工	大之本建設
建 築 面 積	71.39㎡
延 床 面 積	198.98㎡
構 造 規 模	RC造 地上3階
竣 工	2014年12月
撮 影	中尾俊之

未来へと続く家

岸 一 アトリエJIGSAW



これは風光明媚な神戸六甲山の頂きに位置する、趣きのある邸宅を現代の住空間へとリノベーションしたセカンドハウスである。

屋根と構造躯体を生かしたまま3LDKから2LDKへと改築することでゆとり感を持たせ、明るく開放的な空間を実現した。

また、エントランスを軸として右側をパブリックゾーン、左側をプライベートゾーンとしてライフスタイルを明快に分離し、それぞれのゾーンにおける過ごし方にも配慮している。

今後の住宅事情を見据えると、老朽化していく住宅をすぐに壊してしまうのではなく、価値あるものは生かして残していくことで、存在意義そのものも大切にしていくべきではないかと考える。

(岸 一)

六甲のセカンドハウス

所在地	兵庫県神戸市
施工	オーケー
建築面積	139.53㎡
延床面積	122.65㎡
構造規模	W造、地上1階
竣工	2014年9月
撮影	緋田昌重

お洒落な街の、伝統を育む保育園

中尾勝悦 中尾総合建築設計事務所



この保育園は、若者の人気スポットである『西宮北口』と『甲子園口』の間にある閑静な住宅地に位置する。近隣からは運営上の若干の要望があったものの計画の段階から好意的で、静かな街に訪れたイベントの様に迎えられた。

西宮の市街地には、甲子園ホテルを初めレンガタイルを用いた近代建築が多く、『古くから建っていたような建物』が施主の要望であった。要望と優しさを表現するため曲面を持つ外観とし、15mm厚のレンガタイルを貼り、打ち放しコンクリートとコントラストさせた。ステンドグラスを配した開放的で明るいホールで子どもたちは集い、日々クッキングやランチが行われている。

(中尾勝悦・上田夏子)

マザーシップ西宮北口保育園

所在地	兵庫県西宮市
施工	一宇工業尼崎支店
建築面積	208.24㎡
延床面積	582.66㎡
構造規模	RC造、地上3階、塔屋1階
竣工	2014年3月
撮影	エスエス大阪
デザイン協力	シンジョウアーキテクツ

街と緩やかにつなげる

田中啓文 田中啓文総合建築研究所



JR奈良駅徒歩6分、近鉄新大宮駅徒歩7分、大阪と奈良を結ぶ動脈である阪奈道路へと繋がる大宮通り沿い40坪弱の、元戸建て住宅用地。

近鉄奈良駅周辺から新大宮駅、さらに奈良市役所に至るエリアは、奈良に支店を置く企業が多く、また奈良女子大等の大学も立地しており、一定の単身向け住宅の需要が見込まれることから、ポテンシャルを持ったこの敷地を最大限に有効活用すべく、ワンフロアー2戸・9階建・計16戸の賃貸集合住宅を計画しました。

大宮通りに面した外壁は、シルバー色のガルバリウム鋼板製スパンドレル（耐火ウォール下地）と黒色に塗装した押出成型セメント版を対比的に用いて垂直性を強調し、都会的で洗練されたイメージに加え、古都奈良に相応しい和の感性を合わせ持つよう意図しています。

建物を訪れる人は、敷地奥に設けたアイストップとなる植込みを眺めながら建物西側のピロティーを介してアプローチし、ピロティーに開いたガラス貼りのエントランスに至ります。

このエントランスは交通量の多い大宮通りに対しては閉じながら、ピロティーと視覚的に一体化した空間です。幹線道路に面して間口が狭く奥行きのあるこの敷地を生かし、ピロティー空間を内外の中間領域として介在させることで、開放的で落ち着いた雰囲気の中、街とゆるやかに繋がる場を創出しています。

（田中啓文）



RE-SOUL nara shin-ohmiya

所在地	奈良県奈良市
施工	中村建設
敷地面積	128.62㎡
建築面積	79.49㎡
延床面積	677.54㎡
構造規模	S造、地上9階
竣工	2014年3月
撮影	Studio Nob

終の湯屋（ついのゆや）

村重保則・盛紀 村重保則現代建築設計事務所



築100年を越える母屋は、1993年に増築と母屋の改修が施された。既存母屋の天井裏に隠れた小屋組の架構と大黒柱に魅せられた私は、施主の要望であった建替えではなく改修を提案した。天井を剥ぎ取って室内に光を充満させ、家屋に内在する空間の質を引き出し、不足した機能はRC造の増築棟をもって補うこととした。

終の棲家としての快適な浴室空間を求められた今日、庭に存在する地鎮様や石庭に手を加えずに、また普段の生活のなかで、これまで以上に豊かな敷地環境を経験できるよう、雁行した廊下によって母屋と繋がる計画とした。敷地的に母屋との離隔距離を確保できなかったため、室内照度を少しでも助長するように南側の壁面と袖壁を白色の聚楽としている。

寝室と風呂場からは増改築時の壁面に視線が流れ、行き着く先には丁寧に剪定された松が先祖代々の土地に根を下ろしている。

（村重盛紀）

らいこう庵

所 在 地	山口県岩国市
施 工	大島組
建 築 面 積	54.04㎡
延 床 面 積	54.04㎡
構 造 規 模	W造、地上1階
竣 工	2014年1月
撮 影	岡本公二

世代を超えて生き続ける建物

元廣清志 (有)元廣建築設計事務所



本計画は、国道改良工事に伴う移転新築です。

設計に当たっては、地域の皆様との深い関わりを持つ歴史的文化的建築物の実現というコンセプトに立って、伽藍のプラン、建物の設計を行い、地域の皆様と共にある寺院の建設という考え方で努力してまいりました。また、建物の骨組みは、在来の伝統工法に加えて新耐震の強度も考慮に入れました。

皆様と共に感動し、喜びを分かち合い、夢を持ち、町の人々をつなぐ大きな要となる、そんな事が建築の中で実現できたと思います。この建物は、世代を超えて生き続けてくれるものと確信しています。

(元廣清志)

久本山 照源寺

所在地	広島県尾道市
施工	五洋建設株式会社中国支店
建築面積	本堂：879.11㎡ 庫裡：610.93㎡ 上記のほか、はなれ、門信徒会館、納骨堂、涅槃像収蔵庫、山門、鐘樓、屋外便所を建築
延床面積	本堂：731.51㎡ 庫裡：574.64㎡
構造規模	本堂：W造、地上1階 庫裡：W造、地上1階
竣工	2007年12月
撮影	株式会社合同写真

見はるかす伊賀上野城

基本構想：河原輝雄 都窯業



伊賀上野城を見はるかす楼建築である。韓国中部にある2間×7間の晩對楼がよりどころとなっている。

以前から保管されていた古材を極力使用し、窯業を生業としているので木と煉瓦の取り合わせとなった。

2階は宿泊室と書斎を除き、全て吹き放ち空間とし、お城を正面に風を感じながら緩やかな時の流れを感じる空間としている。1階には囲炉裏の間、食事の間、畳の間、離れに浴室棟がある。

ストーブ、囲炉裏、オンドル、五右衛門風呂など、熱源は薪だけでまかなうことができるようにしている。

(河原輝雄)

伊州観白楼

所在地	三重県伊賀市
設計協力	酒井利行、井上久実
申請監理	森永建築設計事務所
施工	南出工務店
敷地面積	3,300㎡
建築面積	105.45㎡
延床面積	140.72㎡
構造規模	W造、地上2階
竣工	2010年3月
撮影	吉村行雄

連載 No.532

法令コーナー

国宝姫路城大天守
保存修理工事

福田剛史

姫路市教育委員会事務局生涯学習部文化財課



写真1 修理後の大天守

2009（平成21）年6月より始まった国宝姫路城大天守保存修理工事は、2015（平成27）年3月に完了した。本稿では、今回の保存修理工事の内容を紹介したい。

姫路城の歴史

世界遺産（文化遺産）に登録されている姫路城は、1601（慶長6）年から1609（慶長14）年にかけて池田輝政により築城された。その後、1618（元和4）年に本多忠政が三の丸や西の丸を築造し、現在の姿が整えられた。輝政以前は、豊臣秀吉や黒田官兵衛が居城しており、現在も大天守の下や城内の各所に秀吉が築いた石垣が残る。大天守など国宝8棟、重要文化財74棟が現存し、城域の一部（中曲輪、内曲輪）が特別史跡に指定されている。

修理に至った背景

大天守は1964（昭和39）年に根本修理（解体修理）である「昭和の大修理」を完了したが、その後も経年により破風や土戸、隅棟の漆喰など部分的な修理が行われていた。契機となったのは2004（平成16）年の台風被害で、四、五層の壁漆喰の剥落に加え、一部屋根瓦が強風により動いてしまい、工事の時期を早めることとなった。

2005（平成17）年に修理検討委員会を立ち上げ、破損状況の調査と耐震性能の評価に着手。その後、各種調査を重ね、2008（平成20）年に修理内容が決定された。

修理の概要

今回の「平成の修理」では、「昭和の大修理」のような解体修理ではなく、屋根瓦の葺直し、壁等の漆喰塗替え、一部構造補強等の部分修理となった。5層6階地下1階の大天守を覆う工事用素屋根は高さ約52mに及び、工事期間中見えなくなる大天守の代役として、線画の大天守を外壁シートに描いた。

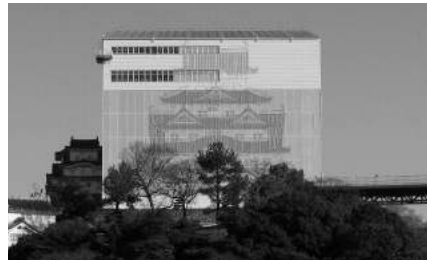


写真2 工事中の素屋根と線画

■屋根工事

大天守は本瓦葺で軒先には滴水瓦を用い、五重に重なる屋根の随所に唐破風や千鳥破風を配した複雑な構造をしている。屋根総面積は約2,060㎡で、今回全てを葺き直した。瓦枚数は約75,000枚。その全てを打診検査して使用の可否判断をし、形状を実測の上、約8割を再使用した。また、全62枚の鬼瓦のうち26枚と大棟の鯉瓦2尾は再使用に耐えないと判断し、新調することとなった。今回7代目となる大棟の鯉瓦は、昭和の大修理と同様に、姫路城に現存する最古の鯉瓦（1687（貞享4）年在銘）を模して製作した。



写真3 新調した鯉瓦

■左官工事

姫路城は「白鷺城」の別名を持つ。壁や軒裏を塗籠めるだけでなく、屋根瓦の隙間にも「屋根目地漆喰塗り」を施しており、白漆喰総塗籠造りと言われている。今回工事では屋根目地約2,060㎡と、内外壁及び軒裏等の劣化部分約5,400㎡を塗替えた。漆喰には石灰や貝灰、海藻を煮詰めた糊など用い、約100種類もの鏝を使い分けて丁寧に塗りあげた。

姫路城の特徴である屋根目地漆喰は黒かびにより黒色劣化し、瓦の色と同化していたが、修理工事により別名にふさわしい姿が蘇った。見る角度、日光の加減により純白に輝く大天守は見る人を驚かせ、一時は白鷺城ならぬ「白過ぎ城」とも呼ばれ話題となった。



写真4 施工中の屋根目地漆喰

■工事見学施設「天空の白鷺」

第1回修理検討委員会で工事現場の一般公開が提案されており、文化庁も文化財修理現場の一般公開を早くから推奨していた。また、姫路城は姫路市にとって大きな観光資源であるため、工事期間中の観光客減少による観光産業への打撃が懸念されていた。

上層に向かうほど容積が逡減する大天守は、素屋根内部に余剰空間が生まれる。文化財修理の普及啓発と集客の問題に寄与するため、その空間を活用して生まれたのが、常時公開の修理見学施設「天空の白鷺」である。城郭という性質上段差等の多い城内にスロープを設置するなど、バリアフリー化にも努めた。



写真5 天空の白鷺見学風景

作業中の職人やエレベータ越しに間近に見える大天守を見学できた天空の白鷺は、期間中約184万人の方々にお越しいただいた。文化財修理をご理解いただくとともに、極端な観光客の減少を食い止めることができたのではないかと考えている。

おわりに

3月27日に大天守内部の一般公開が再開され、多数の方にお越しいただいている。

現在は青空に白く映える大天守の屋根。15年前に修理を終えた小天守群の屋根は、わずか2年程で黒色化した。今回工事では防カビ処置を施したものの、黒い屋根となるまで長くはかからないと想定している。

白い屋根のうちに是非ご来城いただき、昭和の大修理以来の真っ白な大天守をその目に焼き付けていただきたい。（ふくた たけし）

福田剛史

1982年生まれ。三重大学大学院工学研究科修士。2007年姫路市役所入庁

連載 No.410

設備の頁

鉛バッテリー再生
延命装置

川原哲実

センシンテクノ株式会社関東営業所所長

鉛蓄電池は、1世紀以上にわたって実用されてきた非常に優れた製品であり、エネルギーの貯蔵用、非常用、自動車や飛行機の始動、点灯、点火用や最近では太陽光発電等の蓄電装置としても使用されるようになっていく。これらは、鉛蓄電池がどのような用途であっても、最も安く優れた蓄電性能と寿命特性をもっているからである。しかしながら、昨今の環境破壊の問題から更なる寿命の延長が要望されている。一般的に鉛蓄電池の劣化は、機械的な破損と充・放電に伴うサルフェーション生成による内部抵抗の増加によって引き起こされるとされている。サルフェーションの増加を抑えるか、生成したサルフェーションの分解を行うことによって鉛蓄電池の本来の寿命に近付ける事が出来れば、鉛蓄電池はその寿命を2倍近くに延命される。

鉛蓄電池の劣化の原因

■サルフェーションと劣化とは

鉛蓄電池は、酸化鉛（ PbO_2 ）と希硫酸（ H_2SO_4 ）の化学反応を利用して蓄電・放電を繰り返すもので、放電時に電極の周辺に海綿状の硫化鉛（ PbSO_4 ）が生成する。充電すると硫化鉛は、元の酸化鉛（ PbO_2 ）と希硫酸とに戻る。この充・放電を何回も繰り返したり、放電状態で放置した場合、この海綿状硫化鉛は結晶化する。時間経過と共に結晶は大きくなって行き、電極面を覆うようにな

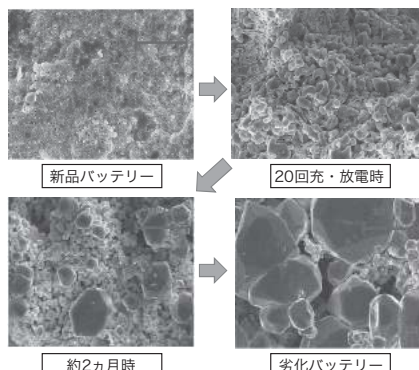


図1 サルフェーションの生成

る。この結晶化した硫酸鉛をサルフェーションと言う。サルフェーションは、電氣的に絶縁物である。（図1参照）

サルフェーションの生成は、電極と希硫酸液との接触面積を低下させ接触抵抗値（内部抵抗の元）を増加させる。又、電解液である希硫酸から硫酸分（ SO_4 ）を結晶化する事によって奪ってしまう。すなわち、希硫酸の濃度を希薄化する。

内部抵抗値の増加によって充・放電時に発熱する。発熱は、電解液の蒸発を加速し電解液の減りが早くなる。また、電解液の希薄化は、蓄電容量を低下させる。これらの結果、
①蓄電池は、電気の流れが悪くなる。
②発熱し、電解液が早くなる。
③充電し難くなる。
④蓄電量が低下し、使用可能時間が短くなる。

⑤放電が出来なくなる。自動車の場合、自動車のセルが回らなくなる。

このような症状が発生した時点で蓄電池は、寿命と判断され廃棄処分となる。

「瞬速B・R」の機能と効果

■機能

①瞬速B・Rは、対象の鉛蓄電池から電源を貰って、蓄電池に高周波パルス印加しサルフェーションを分解除去する物である。
②本製品は、対象の鉛蓄電池の電圧値と蓄電残容量を判別している。
③本製品は、蓄電残容量が大きければ出力パルス数を増し、消費電力は増えるがサルフェーションの分解除去速度を速めると共に過充電状態を素早く解消する。また、蓄電残容量が少なくなれば出力パルス数を減らし、蓄電池が過放電にならない様に消費電力を抑える機能を装備している。
④本製品は、蓄電残容量が終止電圧に近づいてきた場合、パルス出力を止めて消費電力をゼロにする。
⑤本製品は、鉛蓄電池に直接接続されるパルス電流を充・放電する為のスイッチ素子を備え、パルス電流の充電電流を緩やかに、放電電流を急峻にするための波形整形回路を設けると共に、放電電流の最大値を所定の電流値に制限する為の電流制限回路を具備する事で、鉛蓄電池の電源電圧によらず安定した放電パルスを発生する事が出来る。また、パルスの充・放電回路はインダクタンスを含まない回路構成により短時間で放電電流を安定化出来る為、パルス出力数をインダクタンスを含む回路よりも増やす事が出来、サルフェーションの分解・除去速度を高速化できるようにした。

⑥瞬速B・Rは、同種の装置としては唯一デジタル化した装置である。

⑦出力パルス数を2～8万Hzまで蓄電池の蓄電率によって可変する。

⑧サルフェーションの分解速度は、従来の同種の装置と比較して、およそ10倍である。

■効果

鉛蓄電池の劣化の90%がサルフェーションの生成とそれによる発熱が原因である。通常の使用においてサルフェーションは、時間経過と共に徐々に増えるが、寿命期になれば急速に増えるようになる。その為、鉛蓄電池の物理的劣化の少ない時に（新品時が理想）本製品を設置する事で、最も大きな活性・再生効果を得る事が出来る。従って、本製品を装着する事により、蓄電池の交換時期が延長され、 CO_2 の低減と経費の削減が出来る。

①サルフェーションの分解

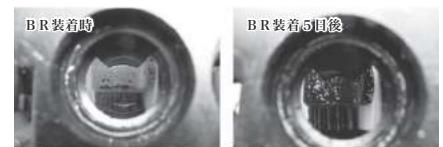


図2 鉛蓄電池 40B19Lに装着

② CO_2 の低減

表1は、バッテリー製造に関する CO_2 の排出量である。^{*1)}

例えば、自動車用の75D23というバッテリーでは、素材材料を製造する為に電気やボイラ燃料等を要するため、22kgの CO_2 が発生する。また、素材を組み立てる為の動力（電気等）で発生する CO_2 の排出量が8kgあり、トータルで30kg（フォークリフトでは、バッテリーの大きさに伴い209kg）の CO_2 が発生する。つまり、バッテリー寿命が2倍になれば、その間新規にバッテリーを装着せずに済むことから、 CO_2 の排出量は半分になる。

表1 鉛蓄電池廃棄による CO_2 排出量計算

品名	素材 CO_2 排出量	製造段階 CO_2 排出量	合計の CO_2 排出量	重量 (参考)
自動車用：75D23	22kg	8kg	30kg	17.0kg
非常用：MSE500	46kg	15kg	61kg	38.0kg
非常用：CS500	52kg	17kg	69kg	43.0kg
フォーク用：VD8-400	156kg	53kg	209kg	129.6kg
フォーク用：VF8-545	206kg	69kg	278kg	172.8kg

③経費削減－非常用電源（MSE-300 108V 54セル）蓄電池交換サイクル：6年

ライフサイクルコストで約46%の削減が出来る。

（かわはら てつみ）

川原哲実

1950年生まれ。国立明石工業高等専門学校電気工学科卒業。2011年から現職

*1) 参考文献『FBテクニカルニュース・電気と工事』

Atelier KISHISHITA (岸下 真理・岸下 和代)



Atelier KISHISHITAにて

経歴

岸下 真理

1969年 生まれ 兵庫県出身
1993年 金沢工業大学工学部建築学科卒業
1995年 金沢工業大学大学院工学研究科修士課程修了
1995年～

2000年 無有建築工房

2001年～ Atelier KISHISHITA 共同設立

岸下 和代

1970年 生まれ 富山県出身
1993年 金沢工業大学工学部建築学科卒業
1993年～

1996年 金沢計画研究所

2001年～ Atelier KISHISHITA 共同設立

受賞歴

2002年 住まいのリフォームコンクール 国土交通大臣賞

2007年 大阪建築コンクール 渡辺節賞

2008年 日本建築士会連合会賞 優秀賞

2010年 JIA関西建築家新人賞

2011年 大阪建築コンクール 大阪府知事賞

2013年 日本建築美術工芸協会 芦原義信賞

2014年 木材活用コンクール 林野庁長官賞

2014年 大阪建築コンクール 大阪府知事賞

2014年 日本建築士会連合会賞 奨励賞

2014年 グッドデザイン賞

「繋ぐということ」

岸下真理、岸下和代のアトリエは大阪市内の下町、築50年の雑居ビル1階にアトリエ兼住宅としてある。

印刷業の町工場兼倉庫として使用されていた約22坪の空間を改修し、家具や杉板のパーティションを介してアトリエ部分と住宅部分がゆるやかに繋がるワンルームとなっている。

職場と住居が同じ場所という一昔前までは当たり前にあった職住一体の空間で、家族3人のつながりが自然と堆積していく生活がそこにはある。

22坪のワンルーム空間は決して空調完備ではないが、「暑い寒い1年で慣れる、それよりも人間力をあげることが重要ではないか」との想いを根底に生活をされている。確かに空調完備の空間で育つことが人間としてのあるべき姿なのかを改めて考えさせられる。

アトリエ兼住宅はそこを訪れるクライアントにとって住み方のショールームともなっているが、設計者のつくる空間や住み方を肌で感じることでできる職住一体のアトリエは、住宅を手掛ける建築家にとって1つの理想のスタイルに思われた。

また、自らの住み心地を体験し、クライアントに善し悪しを説明できる空間が岸下真理、岸下和代の設計スタイルには不可欠だったのではないかと、インタビュー開始後、直ぐに感じる「実直な人柄」がそう思わせた。

岸下真理、岸下和代は両氏共、金沢工業大学で建築を学ばれた。戦争で焼け落ちなかった歴史ある金沢の町並みや師の言葉から、時間が折り重なりつくられていく「歴史的な重層性」の大切さを学んだという。

そんなAtelier KISHISHITAとMan*go designが設計した日本圧着端子製造の本社ビルは、過去・現代・未来へと繋がる建築を模索している。

建物は「繋ぐ」をキーワードとし、各階を4つのエリアに分解し隣合うエリアを半階毎にずらしていくことで、様々な部署の繋がりを生む提案がなされている。また、外装は内外がゆるやかに繋がる木格子をまとい、周辺環境と自然環境の中間材としてよりよいコミュニケーションをはかる空間装置となっている。この木格子は20年後には取替えられ、関連施設のベンチ等の材料として再生される計画となっている。

コンクリートの建物が数十年後にはその躯体寿命を待たずにスクラップされ、新たな建物ができあがることも決して珍しくない現在の中で、経年変化していく材料をまとい、そのまといを将来取替えることで新たな息を吹き返すこの建築は、持続可能性への1つの回答である。新たな建物が建つことを思えば十分に経済的な建築である。

日本圧着端子製造のオーナーはこの建築が国宝になることを夢めている。

国宝になる条件は「残ること」である。オーナーの想いに岸下真理、岸下和代は力強く応えている。

自分の寿命を考えると木格子の取替えに携われるのは1回位だと言う彼らに、生み出した建築には生涯つながるという建築人としての覚悟がそこには見える。

聞き手 清原健史 (安井建築設計事務所)
写真撮影 河合止揚

Member's Forum

会員投稿の頁



U-35委員会企画

talk baton 01,02 活動報告

talk baton はじめました！

若手プラットフォームづくりの活動の一環として、建築と他分野のコミュニケーションイベント「talk baton」をスタートしました。リレーのバトンをつなぐように、テンポよく開催していければと思っています。建築をフィールドとする私たちと毎回のゲストとの対話を通じて、建築が本来持っている多様性やバイタリティを見つめ直し、これからの建築に求められる領域を探っていきます。

U-35委員会Facebookページ

活動内容やメンバーの雑感などぎゅっばらんに情報をアップしています。ぜひ一度お立ち寄りください。

<https://www.facebook.com/U35.aaj>



旅のカナダ人画家が描いたというド派手な巨大鉄扉が今回の会場、ROOTS FACTORYの目印だった。

急な鉄砲階段を3階まで上がる。雑然とした工房の一角が撮影用に設えられ、そこに阪井さんの代表作「MONPEスツール」が無造作に並べられていた。好みのスツールに座ったところでtalk baton01『建築と家具』は静かにスタートした。

■スタンダードを疑う

阪井「子供用の椅子のようだけど、実は大人を意識して作っているんです。高さを決めるのも、雑誌を積んで座ったりして心地よい高さを散々試行錯誤しました。」

このスツールに座ると普段と見える景色が変わり、姿勢も少し前のめりになる。椅子座と床座の中間の高さ。「人間工学ではなく自分自身の心地よさを追求した」という彼の言葉からは、スタンダードを疑ってみることもや実体験から生まれる意外性を楽しむスタンスを感じた。

■自分を追い込む

ROOTS FACTORYのパンフレットは、彼の生き方に対する想いが感じられる。「家具作りたいおっさん」というキャッチコピーが印象的だ。

阪井「パンフに顔を出すとき、ある種の覚悟が必要でした。普通は家具の写真をまず前に出して見てもらうと思うけど、自分が作り出すって表明するのって責任を伴うな、と。」
「つくります」ではなく「つくりたい」想いをストレートに伝え、作り手と使い手が素直に向き合える。ひとりの人としてクライアントと向き合う中で、その人が本当に必要なものが見えてくるのかもしれない。

■使い手と家具の距離感

阪井「古いものが古いだけで良質とは思わないけれど、昔は自分で椅子や机を作っていたから、仕口やディテールは適当だけど生活に合わせた壊れたら自分で直せた。最近の家具は例えばフィニッシュ打ち込んだりでバラす事は考えてないから、結局買い替えるしかない物が多い。」
買うと高いから安くリメイクしたいという方には「新品買ったほうが安いですよ」と言うようにしている、という阪井さん。実際、リメイクの方が手間がかかり高くつくことも多いという。

阪井「それでも思い入れのある家具を愛して使い続けたい、という気持ちに対して全力で応えたいし、その方が楽しいでしょ？」

■建築と家具のサカイ目？

過酷な外部環境（自然）と人間を、隔て・繋げる存在が建築とすれば、家具はそこで過ごす時間を彩るパートナーだろう。

阪井「家具はもっと自由でいいと思う。カラフルに好きな色で、好きな形で。」

より使い手に近い存在である「家具」を内包する建築空間だが、「ユーザー目線の計画」を突き詰めると、家具から発想する建築、というものは成立するのだろうか。

家具職人は自分でデザインして自分で作る道中、「モノ」と向き合い、その奥にある「暮らし」に踏み込んでいく。建築はそんな家具のある暮らしを包む庇護空間だ、とばかりは言っていられないのかもしれない。

talk baton 01 を終えて

「落としどころなしの対話をしよう。」とだけ約束した第1回。最後まで結論のない、ライブ感満載のトークセッションだった。誰が作り誰が使うのか、そんな主語のある関係を大切にしている阪井さんのスタンスは、建築に限らずものづくりの現場でとても大切な前提条件であることを感じた。

対 談 日：2014.11.28

場 所：ROOTS FACTORY
(大阪市浪速区)

モデレーター：廣富 純 (佐藤総合計画)



MONPE スツール



ROOTS FACTORYのパンフレット

Member's Forum

会員投稿の頁

talk baton 02

「建築と不動産」

ゲスト

Arts & Crafts/
大阪R不動産
西川 純司氏

不動産ディベロッパーを経て2013年より現職。住宅のリノベーションや新たな視点からの不動産取引に携わる。



朝公園の一つ北の通りに暖かい光の漏れる一角がある。入り口の前にさりげなく置かれた自転車や棚、植栽。ここが今回の会場、建築設計事務所Arts&Craftsだ。中に入ると落ち着いた家具や照明、左手にはキッチンカウンターも見える。心地よい音楽が流れる中、talk baton02『建築と不動産』がスタートした。

■建物のポテンシャルを活かす

はじめにArts&Craftsのリノベーション、コンバージョン事業についてお話を伺う。倉庫をかつこい事務所にしたり事務所ビルをデザイン性の高いホステルにしたり、キャンピングカーのリノベーションも。

西川「既存の良さ、その時代にしか作られていないようなもの等、味を残しつつ手を加えてより良く化かしていく。建物のポテンシャルを活かしてあげる感じです。」そこに改修の面白さがあると語る。

また、改修の際に発生する不要な建材や照明などを商品として販売するWEBサイト『まだがんばらせてください』も運営している。長屋等の解体時には珍しいものも沢山出て来るが、多くの場合、ゴミになってしまう。まだまだ使える、今となつては希少な素材たちを捨ててしまうのはもったいないという観点から、別のリノベーションの現場で材料として使ったり販売し、次の使い手へと受け渡していく。

■建築的視点・不動産的視点

西川「建築と不動産。同じ『建物』という物質を扱うけれど、それぞれの業界で評価がかなり違うと感じる。」

例に出された二つの集合住宅。一つは有名建築家、もう一つは大手ディベロッパーによるもの。前者は建築業界ではよく知られたものだが、実は色々な原因から分譲当時、かなり安い価格で取引されたそう。集住体への新しい提案で建築的視点からは魅力的だが、その意図が上手く伝わっていないのだろう、一

般消費者にはウケなかったようだ。一方、後者は緑溢れる中高層マンション群。立地や豊かな緑、専有面積の広さ等が評価され、築30年経った今も分譲当時と同水準で取引されている。しかし、会場のほとんどの人がこの建物を知らなかった。建築的視点と不動産的視点。このズレから前者のような歯がゆい事例が生まれるのではないかと。

西川「その両視点をもつのがArts&Craftsの手がけるもう一つの事業、大阪R不動産です。」

万人ウケする平均点を目指すのではなく、『物件ひとつひとつの独自の魅力を伝える』という視点で扱う物件を選ぶ。それをWEBサイトにてR不動産の特徴でもあるアイコン検索と共に担当者のユーモア溢れる言葉で紹介しており、面白い物件が沢山あつて見飽きない。

■ハコからバショへ バショからコトへ

金沢や福岡など地方各地のR不動産が発信する移住促進サイト、real localの展開も興味深い。ハコの自由からバショの自由へ。特徴的なのはその地域の楽しい場所や物件だけでなく、そこに暮らす人、そして仕事までもを紹介している点だ。観光でなく、生活者としてその地域へ入る目線が感じられる。

会場からはさらに『コト』へ展開していきると面白いのではないかと声も。実際、各地のR不動産で顧客同士が集うオフ会など、コミュニケーションも生まれているそう。建築においても建物をつくるだけでなく、いかにアクティビティやコミュニティを生み出すかということが議論されている。不動産でも『ハコ』を超える『コト』を生み出す考え方は、これからの都市を考える上で大切な視点点なのではないだろうか。

talk baton 02 を終えて

最後に西川氏へ「これから何をしたいですか。」と尋ねると、「丁寧に暮らしていきたい。アイロンをかけたり、コーヒーを淹れたり。」と答えてくれた。暮らしの一つ一つを楽しむ人の、見つめ直し、再生という目線。顧客は物件そのものだけでなく、それを作る人々の暮らし方や生き様を含めて理想を思い描くのではないだろうか。ここではそれが上手く成り立っているように感じた。

対 談 日：2015.02.20
場 所：Arts & Crafts (大阪市西区)
モデレーター：横川 彩香(東畑建築事務所)



Real localのサイト。人や仕事のカテゴリーが。

information

1 第13回村野藤吾建築設計図展
ー村野藤吾の住宅デザイナーー

村野藤吾（1891ー1984）の住宅作品は、これまで、大丸神戸店舎監の家や中山悦治邸、中山半邸、中林仁一郎邸、指月亭、松寿荘、自邸など特定のものを除き、作品集ではほとんど紹介されていない。だが、「住宅はもっとも人間に直結しており、また施主と建築家がまさに一対一で向かい合う（中略）大建築の設計をする建築家になるためにも住宅設計の修練を積みねばならない」（「設計について」『建築と社会』1951年7月号）という言葉に端的に表れているように、住宅が建築のなかでも特別の重要性を有していると考えていた。その作風は、和風を基調としたものが多くを占め、日本の建築的伝統をどのように解釈していたのか、多くの示唆が得られる。その一方で、戦前を中心に、モダニズムによるものやアムステルダム派風のものなど、関心を寄せていた多様な造形が現れることも注目される。

今回は、戦前期に焦点を当て、本美術工芸資料館が所蔵する100展以上もの住宅作品の中から、デザインや建設経緯に特徴がある14作品を選定。その多くは現存しないものの、図面資料を主として写真や模型を通じて、村野の住宅作品の多彩さを味わうとともに、彼にとっての住宅とは何であったのか、その理念や手法、施主との関係、時代性などを読み解く。

出展作品 大丸神戸支店店員寄宿舎・同舎監住宅（1931）
下村邸計画案・大阪パッション（1932）
中山悦治邸・武智邸（1934）清流亭計画案（1937）
親米会住宅・川崎航空機工業岐阜工場社宅（1939）
中山半邸・中橋邸・村野藤吾邸（1940）
中林邸（1941）湯浅邸計画案（1943）

期 間 2015年3月16日(月)～6月6日(土)まで
10:00～17:00（入館は16:30まで）
休 館 日 日曜・祝日
（ただし、4/29（水）・5/3（日）～5/6（水）は開館）
会 場 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
京都市左京区松ヶ崎御所海道町
TEL.075-724-7924

観 覧 料 一般200円、学生150円、高校生以下無料



大丸神戸支店店員寄宿舎舎監住宅（舎監の家）立面図
所蔵：京都工芸繊維大学美術工芸資料館

■記念シンポジウム

日 時 2015年4月11日(土) 14:00～17:00
会 場 京都工芸繊維大学60周年記念館 1階記念ホール
テ ー マ 村野藤吾の住宅デザイン
パネリスト 藤森照信氏（建築史家・東京大学名誉教授）
木原千利氏（建築家・木原千利設計工房主宰）
司 会 石田潤一郎（京都工芸繊維大学大学院教授）
定 員 150名
入 場 無料（当日先着順）
主 催 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
村野藤吾の設計研究会
問い合わせ先 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
京都市左京区松ヶ崎橋上町
TEL.075-724-7924
FAX.075-724-7920
E-mail: siryokan@kit.ac.jp
HP: http://www.museum.kit.ac.jp/

2 特別展 肉筆浮世絵ー美の競艶
～浮世絵師が描いた江戸美人100選～

本展は、個人コレクションとしては世界有数の規模と質を誇るウェストンコレクションから肉筆浮世絵の名品約130点を、近世初期から明治に至るまで歴史的に系統立てて展覧する。菱川師宣（ひしかわ・もろのぶ）、西川祐信（にしかわ・すけのぶ）、宮川長春（みやがわ・ちょうしゅん）、勝川春章（かつかわ・しゅんしょう）、歌川豊国（うたがわ・とよくに）、葛飾北斎（かつしか・ほくさい）、祇園井特（ぎおん・せいとく）、河鍋曉斎（かわなべ・きょうさい）ら、多彩な絵師たちによる一点物の貴重な肉筆浮世絵を楽しむことができる。



葛飾北斎「美人愛猫図」
絹本一幅 ©WESTON COLLECTION

期 間 2015年4月14日(火)～6月21日(日)まで
9:30～17:00（入館は16:30まで）
休 館 日 月曜日（ただし、5/4は開館、5/7は休館）
会 場 大阪市立美術館
大阪府大阪市天王寺区茶臼山町1-82
（天王寺公園内）
TEL.06-4301-7285
（大阪市総合コールセンターなにないコール）

観 覧 料 一般1,500円、高大生1,000円

※中学生以下、障がい者手帳等持参の方（要証明）は無料

information

3 堀 文子【一所不住・旅】展

1918（大正7）年、東京に生まれた堀文子は、女性も自立すべきだという母親の影響のもと、画家を志した。40代での初めての西洋体験、50歳直前の大磯への転居、さらに61歳で軽井沢、68歳でイタリア・アレツォ郊外にアトリエを構えるなど、一つの場所、一つのスタイルにとどまることなく、常に追求と挑戦を続けてきた。本展は、堀自身の言葉「一所不住・旅」をテーマとし、飽くなき好奇心と探究心で歩んできた足跡に沿いながら、80年に及ぶ画業を回顧する。初期の作品から最新作までおよそ130点を展示し、堀文子の芸術そして人間像に迫る。



《高原》1952年 中央大学蔵

期 間 2015年4月18日(土)～6月7日(日)
開館時間：10：00～18：00 金・土曜日は20：00まで
(入場は閉館の30分前まで)

休 館 日 月曜日
(ただし、5/4（月・祝）は開館 5/7（木）は休館）

会 場 兵庫県立美術館 企画展示室
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL.078-262-0901

観 覧 料 一般1,300円、大学生900円、
高校生・65歳以上650円、中学生以下無料
※障がいのある方とその介護の方1名は各当日料金の半額（65歳以上を除く要証明）

4 特別展覧会
「桃山時代の狩野派-永徳の後継者たち」

本展は、狩野派の一大転機ともなった慶長年間前後に着目し、永徳没後、「豪壮（ごうそう）」から「華麗（かれい）」へ、さらに新たな為政者・徳川家に対応すべく、「瀟洒淡麗（しょうしゃたんれい）」へと画風を変えていく一大転換の過程を、永徳の後継者たちの作品を一堂にして辿（たど）るもの。「桃山後期」に焦点をあてた狩野派の展覧会としては、過去最大規模となる、国宝1件、重要

重要文化財 豊臣秀吉像 西笑承兌賛 狩野光信筆
愛媛・宇和島伊達文化保存会 前期（4/7～4/26）

文化財23件、重要美術品1件、初公開作品3点を含む69件を出品し、百花繚乱（ひゃっかりょうらん）のごとくその才能を花開かせた狩野派絵師たちの競演と戦いの歴史を紹介する。

期 間 2015年4月7日(土)～5月17日(日)まで
開館時間：9：30～18：00 金曜日は20：00まで
(入館は閉館の30分前まで)

休 館 日 月曜日（5/4（月・祝）は開館）

会 場 京都国立博物館 明治古都館（本館）
京都市東山区茶屋町527
TEL.075-525-2473（テレホンサービス）

観 覧 料 一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
※中学生以下、障がいのある方とその介護者1名は無料（要証明）

5 ピカソと20世紀美術展

19世紀末から20世紀初頭に、ブラックと共にキュビズム運動によりフォルムにおける革命を起こしたピカソ。本展では、長い芸術生活の中でたびたびその様式を変えたことでも知られる彼の、スペイン時代の木炭画から、キュビズム的傾向、新古典主義、1960年代にいたるまでの9点をはじめ、ルオー、シャガールなど、20世紀を代表するアーティストの名品約100点を紹介しながら20世紀美術の動向を概観する。次々とスタイルを変えたピカソの革新性とをあわせ見たとき、豊かさと魅力に気づかされるだろう。

パブロ・ピカソ《肘かけ椅子の女》1923年 富山県立近代美術館蔵
©2015-Succession Pablo Picasso-SPDA (JAPAN)

期 間 2015年3月21日(土)～5月17日(日)まで
10：00～18：00
※金曜日は20：00まで
(入館は閉館の30分前まで)

休 館 日 月曜休館（ただし5/4（月・祝）は開館）

会 場 東京ステーションギャラリー
東京都千代田区丸の内1-9-1
TEL.03-3212-2485

観 覧 料 一般1,000円、高大学生800円、中学生以下無料
※障がい者等手帳持参の方100円引その介添者1名無料

本欄掲載の1～5の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手（82円）を日本建築協会事務局までお送りください。

日本建築協会

月間の動き

平成27年 2月

理事会

第7回常任理事会

2月25日（水） 16：00～17：30
出席者 香西会長ほか7名
議 事（1）27年度役員・評議員の推薦
（2）6月の総会後の講演会講師の人選
（3）100周年記念事業の方向性確認、27年度体制確認
（4）その他

編集委員会

第11回編集・広告企画合同委員会

2月18日（水） 17：30～19：00
出席者 米井委員長ほか4名
議 事（1）3月号特集東海支部特集
（2）4月号特集私の空間作法
（3）5月号特集 あかり・文化・創造
（4）6月号特集これからの学びのかたち
（5）7月号特集第62回青年技術者
（6）8月号特集建築と産業他2点
（7）広告依頼先検討

6月特集号第2回企画会議

2月3日（火） 18：00～19：30
出席者 米井委員長ほか7名
議 事（1）6月特集号企画

6月特集号第3回企画会議

2月26日（木） 17：35～18：40
出席者 米井委員長ほか10名
議 事（1）6月特集号企画

第4回建築計画系分科会

2月9日（月） 19：00～22：30
出席者 三谷幹事ほか4名
議 事（1）2015年8月号特集の企画

第10回構造分科会

2月13日（金） 18：00～19：15
出席者 岸本幹事ほか3名
議 事（1）構造の頁の企画
（2）11月特集号の企画

第9回設備分科会

2月4日（水） 18：00～20：00
出席者 橋本幹事ほか8名
議 事（1）設備の頁の企画
（2）見学会の企画
（3）2015年の特集の企画

第6回施工材料分科会

2月17日（火） 17：00～18：00
出席者 桜井幹事ほか5名
議 事（1）2015年の特集の企画

第10回法令分科会

2月18日（水） 15：00～17：20
出席者 岡本幹事ほか3名
議 事（1）法令コーナーの企画
（2）9月特集号の企画

第10回作品作風小委員会

2月26日（木） 19：00～21：00
出席者 西田小委員会委員長ほか5名
議 事（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況、予定の報告
（3）gallery掲載報告、予定

事業委員会

U-35小委員会「talk baton 02」

2月20日（金） 19：00～21：00
参加者 下田リーダーほか17名
ゲスト 西川純司

第11回U-35小委員会

2月27日（金） 19：00～21：00
出席者 下田リーダーほか3名
議 事（1）活動／組織体制
（2）活動記録
（3）次回予定

出版委員会

第10回出版委員会

2月19日（木） 18：00～19：05
出席者 西委員長ほか4名
議 事（1）＜プロのノウハウ＞と特装本の経過報告
（2）進行中のテーマの検討
（3）新テーマ

教育委員会

第2回講習会小委員会

2月24日（火） 18：00～20：30
出席者 山形委員長ほか5名
議 題（1）建築工事実務講習会反省会
第10回大阪府住まいづくり教育普及協議会
2月20日（金） 10：30～12：00
議 題（1）出前講座の実施
○交野市立第三中学校
○大阪教育大附属平野中学校
（2）平成27年度事業計画

100周年関連事業委員会

第68回群像インタビュー

2月17日（火） 14：00～16：00
出席者 清原委員ほか2名
インタビュー 岸下真理・岸下和代
第11回10年委員会
「大阪ええとこ」そぞろ歩く御堂筋提案
コンクール審査会

2月20日（金） 17：00～19：00

出席者 審査委員 橋爪紳也 澤田充
10年委員会委員設楽委員長
ほか4名
議 題 審査結果／応募点数 59点
最優秀賞 1点、優秀賞 5点

100周年記念事業準備委員会

第6回打合せ

2月17日（火） 18：30～20：00
出席者 設楽委員長ほか2名
議 事（1）100周年記念出版の方向性
（2）平成27年度の体制

見学会

「廣誠院」茶室見学会

2月21日（土） 14：00～16：30
講 師 中村昌生
（京都工芸繊維大学名誉教授）
委 員 豊田小委員長ほか3名
参加者 34名

編集委員会（平成27年度）

■副会長

設楽 貞樹
本多 友常
■編集担当理事
西 博康
押味 至一
佐藤 榮一
杉本 浩
竹中 統一
松本 眞一
吉村 英祐
◎米井 寛

■副委員長

○勝山 太郎
■特集小委員会
■計画分科会
★計画系
飯田 匡
鈴木 克彦
△田中 直人
紅谷 昇平
松田奈緒子
三宅 次郎
守井 辰
吉村 英祐

★建築計画系

荒木 宏之
大西 広朗
神戸 嘉也
静 茂夫
下坂 浩和
野田 隆史
橋本 祐典
△三谷 帯介
樋口 展寛
米山 剛史
渡部 剛

★インテリア・住宅

今井 充彦
川合 隆之
△黒柳 亮
酒井 雅男
塚口眞佐子
ペリー史子
間渕 一博
森岡 拓也

■構造分科会

伊藤 栄治
岡田 健
△岸本 光平
司馬 勢也
瀧野 敦夫
角田 耕一
橋本 宗明
松村 健
宮久保秀樹
向井 洋一

■設備分科会

有尾清二郎
北野 勝也
樺田 輝生
寺井 千佳
長澤 康弘
夏井 重行
野崎 正二
△橋本 直樹
桝井 貴廣
宮崎ひろ志
村上幸三郎
山本 雅洋

■施工材料分科会

荻巣 友貴
後藤 尉彦
△桜井 和男
高橋 秀一
藤丸 啓一
山口 紀宏
吉田 正友

■法令分科会

井上 久明
△岡本 亮二
河野 学
田中 幸夫
前田 俊文
吉岡 忠

■作品作風小委員会

東井 嘉信
居内 章夫
池上 明
稲垣 和江
加嶋 章博
菊池 浩輔
倉橋 尉仁
倉渕奈千子
澤田 純一
鞆野 淳司
豊田 充広
鳥居 久人
▲西田 佳代
塚口眞佐子
芳谷 晴彦
増田 敬彦

■広告企画小委員会

大谷 金由
小川 雄介
小山 昭
権代 晃
藤田 昌宏
▲前田 衛
山辻 直樹

（順不同）

◎委員長

○副委員長

▲小委員会委員長

△幹事

印刷 2015年3月30日
発行 2015年4月1日
発行人 一般社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電話 06-6946-6981
印刷所 榊中島弘文堂印刷所
デザイン 多田正治（多田正治アトリエ）
定価 1230円（税込）

お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応できるように

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 中島弘文堂印刷所

本社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761 / FAX.06-6976-8765

東京支社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目4-2 風雲堂別館ビル2階
TEL.03-3526-5580 / FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社 日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛸池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

コンクリートのひび割れ対策に

NETIS 登録済み
KT-040018-V

DENKA
DENKI KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA

高性能膨張材

デンカパワーCSA

JIS A 6202
適合品

特 性

- ・乾燥収縮の低減
- ・自己収縮の低減
- ・水密性の向上(防水性)
- ・温度ひび割れの低減

主な用途例

- ・合成デッキスラブ
- ・土間スラブ
- ・RC 構造物
- ・自己充填コンクリート
- ・マスコンクリート 他

膨張材以外にも

- ・無収縮グラウト材
(タスコン)
 - ・躯体防水材
(シャガード)
 - ・ポリマーセメントモルタル
(RIS シリーズ)
- など、各種混和材(剤)を
ラインナップしています。

●資料のご請求お問い合わせは・・・

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社 本社
〒629-3101 京都府京丹後市網野町網野126
TEL 0772-72-2220 FAX 0772-72-2888
舞鶴営業所・福知山営業所・豊岡営業所

小浦産業株式会社

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1丁目14番6号
TEL 06-6443-6181 FAX 06-6443-6270

写真マンガでわかる (プロのノウハウ)

工務店の クレーム対応術

日本建築協会 (企画)

四六判・220頁
本体2000円+税

玉水新吾・青山秀雄 著
阪野真樹子 マンガ

施主の満足度を高め、
選ばれる工務店に
なるためのヒントが
満載!

住宅づくりの
現場で
よくある
クレーム
を網羅!
「事前説明のしかた」と
「発生後の対応法」
がわかる



学芸出版社

〒600-8216
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811
Fax 075-343-0810

http://www.gakugei-pub.jp/
E-mail info@gakugei-pub.jp

設計・監理・
施工者のための

建築品質 トラブル予防のツボ

若手～中堅の
技術者必携!

確かな品質の建築を協力してつくるための
基本作法とトラブル予防のポイントを解説

日本建築協会 企画 仲本尚志・馬渡勝昭 著

A5判・248頁・2800円+税



敷地



屋上・防水



バルコニー



屋根



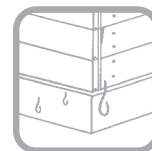
地下躯体



RC造



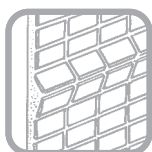
鉄骨造



パネル外壁



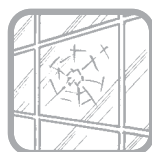
外壁石



外壁タイル



外部建具



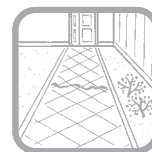
ガラス



外壁その他



内部仕上げ



外構



設備

学芸出版社

〒600-8216
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811
Fax 075-343-0810

http://www.gakugei-pub.jp/
E-mail info@gakugei-pub.jp